みんぱくリポジトリ
国立民族学博物館学術情報リポジトリ National Museum of Ethnolo

北部少数民族の儀礼・宗教

メタデータ	言語: jpn 出版者: 公開日: 2011-03-11 キーワード (Ja): キーワード (En): 作成者: 樫永, 真佐夫 メールアドレス: 所属:
URL	http://hdl.handle.net/10502/00008975

第2節　北部少数民族の儀礼・宗教

北部少数民族の儀礼、宗教の特徴的な共通要素が祖先崇拝と精霊崇拝であることが仏領期の民族概説書以来、はっきりと指摘されてきた［Abadie 1924］［Diguet 1908］［Lunet de Lajonquiere 1906］。西北、東北部いずれにおいても、上座仏教などのように村落を越えた教団組織と宗教施設を持つ宗教集団の形成はあまり見られない。たしかに19世紀末からフランス人宣教師の活動によってモンを中心とする高地民がカトリックに改宗した。カトリックへの改宗者は西北、東北部全体としては少数で、また彼らに焦点を当てた研究は珍しい。またベトナム戦争期（1960-1975）を中心に、CIA（アメリカ中央情報局）が山地のモンを反共産ゲリラに仕立て上げる工作の一環で、彼らをまずプロテスタントに改宗させたこと、アメリカ撤退後も反共的政治活動と一体化したプロテスタント布教活動を中部高原に移住したモンが継続していることは知られている。しかし、プロテスタント化したモンの宗教実践に関する研究は管見の限り珍しい。概して北部少数民族に関する宗教・儀礼研究の焦点は、村落における社会生活で冠婚葬祭、祖先祭祀、精霊崇拝、治療儀礼、生産儀礼がどのように行われているかにあり、それらが民族ごとの本質主義的な文化要素として記述されてきた。西北部北辺のターイの宗教実践における漢族やキンの影響を指摘したM. デュラン［Durand 1952］のような例外はあるが、宗教的シンクレティズムや民族間関係を視野に入れた宗教研究はあまり行われていない。以下では、北部少数民族の儀礼、宗教に関して、ある程度継続的な議論があった研究を紹介したい。

1. トーテミズムへの関心

ターイの父系同姓集合ごとに、食物禁忌の習慣があることを報告したのはマスペロである。それぞれの姓と、その姓の者が食することを禁止されている動植物の名称の間に音韻上の類似があることを指摘した［Maspéro 1916］。牧野が指摘したように［牧野 1949: 280-281］、この論文は東南アジア大陸部にかつてトーテミズムが存在したというラウファー［Laufer 1917］の仮説を刺激した。1936年から1938年にかけてラオス北部を中心に調査を行ったイズィコヴィツは、モン・クメール系ラメットの文化的特徴を隣接する諸民族との関係から考察する中で、ターイの下位集団黒タイはトーテム氏族を形成していると記している［Izikowitz 2001: 29］。しかしこれはターイ社会の詳細な調査に基づく推論ではない。

マスペロによるターイの食物禁忌に関する調査は、ラフォン［Lafont 1955］に引き継がれた。ラフォンの結論は、ある姓の者がある動植物を食することを禁止されているのは、その姓と動植

物名の間に音韻上の類似があるからにすぎない、というマスペロ説の補強である。ベトナムではその後、カム・チョン［Cầm Trọng 1987］が社会進化論的前提から、かつてターイ社会は父系氏族ごとに食物禁忌を伴ったトーテム父系氏族によって分節されていたと述べた。しかし、カム・チョンもこの推論を裏づける民族誌的データを提示していない。社会進化の初期段階にトーテミズムを伴う原始的な父系氏族制があったはずだという理論的前提に基づく推論である。民族誌的には彼自身も、ターイのトーテム的食物禁忌と言われてきたものが姓の呼称と動植物の呼称上の音韻上の類似に基づくに過ぎず、祖先との関係など、それ以外の宗教観念に基づくものではない、というマスペロ、ラフォンの結論をそのまま認めている。現在、この地域の民族社会における食物禁忌に関するインテンシブな研究はほとんど見られない。

2. 村落を越えた共同体儀礼

中国雲南省から東南アジア大陸部にかけての山間盆地で灌漑水稲耕作を行ってきたタイ系民族が、近代まで発達させてきた政治単位を「ムオン（ムアン）」という。タイ系民族の首領一族の祖霊祭祀と一つになった「ムオン（ムアン）の守護霊祭祀」（センムオン）の儀礼については、植民地期からフランス人に報告されている。いっぽう、村落を越えたレベルの共同体宗教儀礼は東北部タイー、ヌンの間では報告されていない。また、ターイが居住している山間盆地と紅河デルタの間の盆地、丘陵地で水稲耕作を基調とする生業を行ってきたムオンも、宗教、物質文化の点でターイとのきわめて高い類似性を示すが、センムオンのような儀礼を開催していない。

センムオンは1954年以降の西北部における社会主義化以降開催されていない。しかし、その儀礼過程に関する報告は、古老たちの記憶に基づいて現在に至るまで引き続き報告されている［Chương trình Thái học Việt Nam, biên soạn 1998; 2002］。これまでのセンムオン研究については、ムオンに関する研究との関わりから［樫永 2002］でもまとめられている。大きく分けて、ターイの世界観、および盆地を中心とした空間認識に関するもの［Cầm Trọng 1978; 1987］［Condominas 1980］［Cầm Trọng; Phan Hữu Dật 1995］、政治組織との関わりに関する研究［加治 1990; 1991］［森 1989］［Cầm Trọng 1978; 1987］［Condominas 1980］［Cầm Trọng; Phan Hữu Dật 1995］［Dang Nghiem Van 1972］［Ngô Đức Thịnh; Cầm Trọng 1999］がある。1970年代から1980年代にかけて隆盛した東南アジア前近代政治体系に関する議論の中で、ムオンは「銀河政体論」［Tambiah 1976］、「マンダラ論」［Wolters 1982］としてモデル化され、政治体系と儀礼の関わりは議論された。

3. 今後の方向性

これまで儀礼と宗教は、しばしば民族ごとの文化要素としてモデル化されてきた。現在の社会経済状況とこれまでの歴史を視野に入れつつ、ミクロな観察に基づいた宗教実践の動態的分析が今後、進展していくことであろう。その場合、次のような点に焦点をあてることが可能である。

たとえば、宗教的シンクレティズムと宗教実践の問題がある。宗教や儀礼的行為や表象を、要素ごとに分解するのではなく、生活の中でどのような宗教活動が行われ、また、それが社会生活とどのように関わっているのかを全体として見る宗教研究が可能である。都市化による変化なども視野に入れる必要があるであろう。

次に、民族間交流関係と歴史を視野に入れた宗教と儀礼慣行の相互比較研究が可能である。たとえばムオンとターイの間には、「モ」と呼ばれ、職能も共通した祈祷師の存在がともに確認される。このように、民族間の交流関係と宗教儀礼の共通性と差異の問題は、歴史的な視点からも

今後扱われる必要がある。また、民族間の宗教儀礼的類似の例で言えば、キンのシャーマニズム、「レンドン」に、山地少数民族の装束で表象される山の神が登場することが思い起こされる。タイー、モン、ザオなどもシャーマニズム慣行を有するが、これらの比較研究は十分に進んでいない。社会経済生活の変化とシャーマニズムの関係も今後の課題である。

社会経済生活の変化との関連でいえば、宗教的職能者の知識の継承の問題は、急速な社会変化を遂げつつあるベトナムでは急務である。ザオの道教において道教の継承は漢字の継承と不可分の関係にあった。このように宗教、儀礼を行う上での知識と技術がどのように継承されていくのか興味深い。また、道教的要素に絞れば、タイーやヌンの間にも明らかに道教的な儀礼要素が認められるが、研究が進んでいない。(樫永真佐夫)

参考文献

〈和文〉

* 加治明 . 1990.「ベトナム西北地方のタイ族の宗教信仰 : 特にピー・ムオン祭祀について」『アジア諸民族の歴史と文化 : 白鳥芳郎教授古稀記念論叢』99-114 頁所収 . 東京 : 六興出版 .
* 加治明 . 1991.「ベトナム・タンホア地方の紅タイ族の宗教について」『東洋研究』98: 1-27.
* 樫永真佐夫 . 2002.「〈ムオン・ムオイの黒タイ慣習法〉について」『国立民族学博物館研究報告』26(3): 361-447.

牧野巽 . 1949.「東亜における氏族外婚制」『現代社會學の諸問題 : 戸田貞三博士還暦祝賀紀念論文集』東京大學社會學會 (編) 267-293 頁所収 . 東京 : 弘文堂 .

* 森幹男 . 1989.「タイ系諸族の『クニの柱』祭祀をめぐって 1 : タイ系文化理解の一視角」『アジア・アフリカ言語文化研究』38: 91-109.

〈欧文・越文〉

*Abadie, Maurice. 1924. *Les races du Haut-Tonkin de Phong-Tho à Lang-Son*. Paris: Société d'éditions géographiques, maritimes et colonials.

*Cầm Trọng. 1978. *Người Thái ở Tây Bắc Việt Nam*. Hà Nội: Nxb. Khoa học xã hội

*Cầm Trọng. 1987. *Mấy vấn đề cơ bản về lịch sử kinh tế xã hội cổ đại người Thái Tây Bắc Việt Nam*. Hà Nội: Nxb. Khoa học xã hội.

*Cầm Trọng; Phan Hữu Dật. 1995. *Văn hóa Thái Việt Nam*. Hà Nội: Nxb. Văn hóa dân tộc.

*Chương trình Thái học Việt Nam, biên. 1998. *Văn hóa và lịch sử người Thái ở Việt Nam*. Hà Nội: Nxb. Văn hóa dân tộc.

*Chương trình Thái học Việt Nam, biên. 2002. *Văn hóa và lịch sử các dân tộc trong nhóm ngôn ngữ Thái Việt Nam*. Hà Nội: Nxb. Chính trị quốc gia.

*Condominas, Georges. 1980. *L'espace social à propos de L'Asie du Sud-est*. Paris: Flammarion.

*Dang Nghiem Van. 1972. An outline of the Thai in Vietnam. In *Vietnamese studies 32 : Ethnographical data 1*, pp. 143-196.

*Diguet, E. 1908. *Les Montagnards du Tonkin*. Paris: A. Challamel.

*Durand, Maurice. 1952. Notes sur les pays tai de Phong-thô. *BSEI (Nouvelle série)* 27(2): 193-231.

Izikowitz, Karl Gustav. 2001(1951). *Lamet : hill peasants in French Indochina*. Bangkok: White Lotus.

*Lafont, Pierre-Bernard. 1955. Notes sur les familles patronymiques Thai Noirs de Son-la et de Nghia-lo. *Anthropos* 50: 797-809.

Laufer, Berthold. 1917. Totemic traces among the Indo-Chinese. *Jounal of American Folklore* 30(118): 415-426.

*Lunet de Lajonquière, Etienne. 1906. *Ethnographie du Tonkin septentrional*. Paris: Leroux.

*Maspéro, Henri. 1916. De quelques interdits en relation avec les noms de famille chez les Tăi-Noirs. *BEFEO* 16: 29-34.

Ngô Đức Thịnh; Cầm Trọng. 1999. *Luật tục Thái ở Việt Nam (Tập quán pháp)*. Hà Nội: Nxb. Văn hóa dân tộc.

Tambiah, Stanley J. 1976. *World conqueror and world renouncer : a study of Buddhism and polity in Thailand against a historical background*. Cambridge: Cambridge University Press.

*Wolters, O. W. 1982(1999). *History, culture, and region in Southeast Asian perspective*. Singapore: Institute of Southeast Asian Studies. (Rev. ed.: Ithaca, N.Y.: Southeast Asia Program Publications, Southeast Asia Program, Cornell University in cooperation with the Institute of Southeast Asian Studies, Singapore)